

能「屋島」下平 克宏

第8回

令和5年 6月11日(日)

長昌寺能 花の会

14: 30~ 於：長昌寺本堂

S席お申込みの方で希望者先着50名様をご招待。

【主な内容】

講演「滝川一益と前橋」 手島仁
大念誦 読経 長昌寺住職ほか
謡 下平克宏 ほか
奉納仕舞 「屋島」 下平克宏 ほか

一調	能	狂言	独吟	仕舞
杜屋	萩	羅	玉	
	大	生		
若島	名	門	鬘	

音声(イヤホン)ガイドの御案内

能楽師による、生ライブ解説を、ワンコインでお楽しみください。

◇ 500円 (機器使用料) ◇ 1,000円 (保証金、返却時に御返金します)

音声ガイド受付にて、承ります。数に限りがございます。

令和5年8月31日[木]

月の会

午後6時開演
(午後5時開場)

於・昌賢学園まえばしホール 前橋市南町3-62-1
(前橋市民文化会館)・大ホール

入場料

S席：6,000円
A席：4,000円

申込方法

チラシ裏面の申込書に住所・氏名・電話番号を
記載の上、FAXをお送りください。



藤波 重彦



殿田 謙吉



野村 萬斎



下平 克宏



大槻 崇充

【主 催】長昌寺能運営委員会 【共 催】公益財団法人前橋市まちづくり公社

【後 援】前橋市教育委員会 前橋商工会議所 上毛新聞社 読売新聞前橋支局 毎日新聞社前橋支局 産経新聞社前橋支局
東京新聞前橋支局 群馬テレビ 株式会社 エフエム群馬

番組									
滝川一益公を偲ぶ 長昌寺能									
18:00	挨拶	長昌寺能運営委員会 前橋市長		石原 栄一 山本 龍					
18:10	お話	手島 仁							
18:20	仕舞	玉鬘			下平 克宏				
				地謡	藤波 重孝 新江 和人 武田 崇史 寺井 美喜				
	独吟	羅生門			川原 恵三				
	一調	杜 若			藤波 重彦 太鼓 大川 典良				
18:50	狂言	萩大名		大名 野村 萬斎 亭主 内藤 連 太郎冠者 中村 修一					
(休憩 15分)									
19:30	能	屋島	漁翁・義経 漁夫 旅僧 従僧 従僧 塩屋の主 笛 小鼓 大鼓 後見 岡庭 地謡	下平 克宏 大槻 崇充 殿田 謙吉 則久 英志 野口 能弘 高野 和憲 藤田 貴寛 幸 正昭 安福 光雄 寺井 榮 祥大 藤波 重彦 藤波 重孝 川原 恵三 北浪 貴裕 小檜山浩二 新江 和人 金子 聡哉 田口 亮二					
				イヤホンガイド	武田 崇史				
20:20	謝辞	長昌寺住職		栗木 信昌					

長 昌 寺

群馬県能発祥の地

芳林山栄興院長昌寺(曹洞宗)は延徳元年(1489)、長野方業(まさなり)が厩橋城を築くとともに城内に大洞禅師を開山として創建した寺院。天正9年(1581)には火災で焼失し、城主の北条(きたじょう)高広(たかひろ)が現在地に再建。翌10年、武田氏を滅ぼした織田信長が関東管領として滝川一益を派遣すると、一益が厩橋城主となった。一益は支配下の諸将を城内に招き「玉鬘」を舞って見せ、長昌寺境内に本格的な能舞台をつくり、能興行を行った。これが記録に残る上州＝群馬県での初めての能である。

神流川合戦で敗北した武将を長昌寺で供養し、よく戦った武将をねぎらい、別れの宴を開いた時も、能を演じ、能「羅生門」の一節を、一益と上州の武将が謡いあったという。



あらすじ

狂言「萩大名」 はぎだいみょう

在京している遠国の大名が、庭の萩を見物に行くことになります。太郎冠者は、庭の亭主に所望されたときの為に、「七重八重 九重とこそ思ひしに 十重咲き出する 萩の花かな」という和歌を、大名に教えます。

扱、庭にやってきた大名は、庭を誉めることもできず、太郎冠者に助けられながらも、和歌も詠ずることも出来ません。あきれた太郎冠者は先に帰ってしまいます。残された大名は、和歌を詠じようと思いますが、最後の七文字が思い出せません。さて、どうなることやら。不調法ながらも憎めないキャラクターの大名、萬斎氏の演技に乞う御期待です。



萩大名

能「屋島」 やしま

世阿弥作の、源義経を主人公にした、修羅物の代表作です。

旅僧が、讃岐の国屋島にやって来て、一夜を明かそうとすると、漁翁と若い漁夫が現れ、旅僧に宿を提供します。

さらに僧の求めに応じて、二人は源平の合戦の物語を語ります。その内容は、景清と三保の谷との一騎打ちや、佐藤継信が平教経の矢に打たれたことなど、戦いの駆け引きの様子を臨場感たっぷりに語ります。その真に迫った話しぶりに、僧が不審に思い名を尋ねると、漁翁は名乗らずにはぐらかし、「よし常の浮世の、夢ばし覚まし給うなよ」と言い残し姿を消します。

やがて僧の夢に、義経が凛とした姿で颯爽と現れ、生前の妄執の為、屋島を離れられず、今も尚さまよっているのだと述べます。さらに、波に流された己の弓を命がけで取り返したことをはじめ、屋島での勇猛果敢な戦の様子を語ります。やがて夜が明けると、爽やかな浦風の中に姿を消すのでした。

いちっしょう 一調「杜若」 かきつばた

杜若の花の精が、業平が詠んだ和歌の功德により、草木ながらも成仏を遂げたと謝し、艶やかな舞を披露します。

一調とは、謡の独吟と、一つの楽器のセッションにより、奏されます。

案 内

※駐車場は詰め込み駐車となります。駅北口パークアンドライド(有料)をご利用ください。

第8回長昌寺能は、滝川一益が長昌寺において「玉鬘」を舞った6月11日の記念すべき日に、本能「月の会」を前にした「花の会」を長昌寺で開催します。「滝川一益と前橋」と題した講演をはじめ、大念誦・謡の供養、そして本能への前触れとして、下平克宏による奉納仕舞「屋島」を上演します。

S席お申込みの方でご希望される方の先着順となりますので、どうぞふるってお申込みください。

申 込 書		FAX.027-280-5744			
問い合わせ先		ぐんラボ！制作室 027-280-5722			
住 所	〒				
氏 名					
電話番号	FAX 番号				
チケット申込み枚数	S 席 6,000 円	枚	A 席 4,000 円 枚		
花の会	どちらかに○をつけてください。	希望する	希望しない		

◎問い合わせ先 ☎ 027-280-5722 ぐんラボ！制作室
◎メールでの問合せ E-mail:a-kikaku@mail.wind.ne.jp 朝日企画 (株)